

公立小学校をみんなが行きたい場所にしたい！

Grassroots Education 活動紹介

活動概要

私たちは「公立小学校をみんなが行きたい場所にしたい！」ということを目指して活動をしている池田市の市民団体です。

これまで主に「共感の輪を広げる」と「実現に向けて試行錯誤する」という2つの活動をしてきました。

1) 共感の輪を広げる活動：

地域で同じ思いを持つ人を集めると共に、学校の在り方、教育の目的などを一緒に考えるきっかけ作りのための「座談会」「上映会」などを実施。

2) 実現に向けて試行錯誤する活動：

小学校のありたい姿を実現するための方法を試行錯誤し、学校の先生や校長先生、地域の方や保護者などたくさんの人と対話を重ねながら、「ScTN質問紙」の学校導入に向けての活動を始め、今後は、先生たち向けのコーチングサービスなどの展開も考えている。

団体設立経緯・背景

きっかけは我が子の授業参観。時代が大きく変わりつつある中で、ICTや英語の導入などの見た目は変わっているものの「先生が持っている答えを当てにいく」正解主義が中心にあることにモヤモヤを感じた。公文教育研究会で10年以上コンサル業務に従事し、多くの保護者や子どもたちを見てきたこと、またこのモヤモヤを機に全国の学校を視察する中で、不登校や社会の閉塞感に課題を感じ、仲間と共にこの市民団体を立ち上げた。

目指す未来

このプロジェクトを通して実現したいことは3つ。

1. 公立小学校に通う子どもたち、そこに関わる大人たちにとって「学校が行きたい場所」になること
2. 中教審の「令和の日本型学校教育」の掲げる「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」の実現
3. 学校が抱える課題を、システム・仕組みづくりで解決すること

これまでの成果や実績

- ・2022年10月より活動を続けて、上映会や座談会の参加者はのべ500名
 - ・映画「みんなの学校」（関西テレビ放送製作）の木村泰子先生との対話会実施
 - ・主催した池田市パブリックコメントの会では、前回まで数件だったコメントが113件になり、教育振興基本計画に採用
 - ・ScTN質問紙導入に向けての勉強会実施し、市長、議員を巻き込んでの勉強会に発展
- ※「行きたい学校研究会」